

臥床患者の洗髪用具に関する調査研究

—3種類の洗髪用具に対する看護師のとらえ方に焦点を当てて—

江頭典江¹・今西誠子²・田村葉子²・黒木美智子²・奥津文子³・山田豊子⁴

要 旨

本研究の目的は、臨床で主に使用する「洗髪車」「ケリーパッド」「高分子吸収ポリマー入りシート」での洗髪に関する看護師の記述から、これらの用具を用いて行う洗髪の問題点を明らかにすることである。

全国 188 病院の看護師 1,880 名を対象に、洗髪における問題点、工夫点等の実態調査を行い、111 病院 813 名から回答を得た（回収率 43.9%）。3 種類の用具での洗髪について、使用する用具の評価として肯定的意見の割合は、「洗髪車」61.6%（n=210）、「ケリーパッド」43.2%（n=104）、「高分子吸収ポリマー入りシート」42.8%（n=170）であり、3 種類の用具間で、肯定的意見と否定的意見の比率に有意差が見られ、なかでも「洗髪車」での洗髪は肯定的意見が有意に多かった。

さらに、洗髪用具ごとに肯定的あるいは否定的意見の理由に関する記述を内容分析の手法で分析した結果、肯定的意見をもつ理由として、【用具独自の機能性】【洗髪成果の十分さ】【患者の安楽さ】【看護師負担の少なさ】の 4 カテゴリーが抽出され、否定的意見をもつ理由として、【用具の機能面の不足や特性】【用具選択の制限（洗髪車のみ）】【洗髪成果の不十分さ】【患者の負担】【看護師の負担】の 5 カテゴリーが抽出された。

キーワード：洗髪用具、看護師の肯定的意見、内容分析

1. はじめに

洗髪は、頭皮・頭髮の清潔を保つばかりでなく、爽快感や快い睡眠が得られる、闘病意欲がわく、自尊心が高まる等の成果が期待されている¹⁾。

先行研究では、洗髪による頭部落屑量の減少²⁾や生理学的効果³⁾の報告に加え、高齢者における術後せん妄予防の効果⁴⁾も指摘されている。また、看護師の認識調査では、床上での洗髪は移動や更衣より重要な看護行為とする報告もある⁵⁾。そのため、臨床看護師の多くが、洗髪用具に対して検討を重ねている⁶⁻¹¹⁾。

一方、佐藤らは看護師に対し、患者の立場に立つて感じる洗髪用具の印象を聞く試みを行っている¹²⁾。このように、看護師の意見は患者の立場をも反映さ

せることが可能と考え、今回、臥床患者に使用する 3 種類の洗髪用具を用いた洗髪に関する看護師の意見から、臨床における臥床患者の洗髪方法の問題点を明確にしようと試みた。

2. 目 的

本研究の目的は、臨床で臥床患者に使用する「洗髪車」「ケリーパッド」「高分子吸収ポリマー入りシート」での洗髪に関する看護師の意見から、各洗髪方法の問題点を明らかにすることである。

3. 研究方法

3-1 調査対象

全国の 400 床以上の病院を対象に、一都道府県当

1 大阪信愛女学院短期大学 非常勤講師

2 前京都市立看護短期大学

3 滋賀県立大学

4 中京学院大学

たり無作為に4病院を選出し、合計188病院の看護師1,880名を調査対象者とした。

3-2 調査方法

1施設当たり10名分の自記式質問紙調査票を看護部宛に郵送し、配布を依頼した。

3-3 調査内容

現在の病棟における臥床患者の洗髪実施状況と問題点、回答者の属性等で構成した。また、現在主に使用していると考えられる3種類の洗髪用具に関しては、質問紙の作成に先立ち、A病院の看護師10名に対し、臥床状態にある患者の洗髪用具、頻度、所要時間、必要な湯量等について面接聞き取り調査を行い、その内容を参考にした。

3-4 分析方法

3-4-1 分析は、SPSS14.0Jを使用し、臥床患者を対象に洗髪車、ケリーパッド、高分子吸収ポリマー入りシートを用いた洗髪に関して、看護師の意見を「満足」「やや満足」「やや不満足」「不満足」の4段階で求め、「満足」「やや満足」を肯定的意見、「やや不満足」「不満足」を否定的意見として二分し、両者の比率を用具別に求めた。なお、臥床患者に使用する洗髪用具が複数ある場合は、該当する洗髪用具すべてについて意見を求めた（複数回答）。さらに、これら3種類の用具間で洗髪に対する肯定的意見と否定的意見の比率に有意差がないかを調べた（カイ二乗検定）。

3-4-2 看護師は洗髪用具をどのような条件で選択するのか、用具別に4つの条件、「人的条件（看護師の手がかかるため）」「空間条件（スペースが狭いから）」「患者条件（髪の量や長さ、体位など）」「その他の条件」の有無を調べた（複数選択可）。そして、これらの条件がある場合は、ない場合に比べて洗髪に対する看護師の4段階の満足感に差があるかを調べた。（Mann-WhitneyのU検定）。有意水準は.05とした。

3-4-3 3種類の用具での洗髪に対する看護師の肯定的意見と否定的意見について、その理由とする自由記載欄の文章をBerelson. Bの内容分析¹³⁾の手法で分析した。肯定的意見の自由記載から、その基準になったと考えられる記述を意味内容の類似性に従い分類し、サブカテゴリー

とした。さらに意味内容が類似したサブカテゴリーを集め、肯定的意見を決定した要因と考えられる4～5個のカテゴリーを生成した。否定的意見についても同様に行った。この分析における記録単位は、肯定的（満足）または否定的（不満足）を意味すると考えられる最小限の語句のまとまりとした。

なお、128記録単位（全記録単位の11%）を用い、共同研究者に協力を得て、カテゴリー分類の一致率算出を試みた。その結果、2名の共同研究者と筆者の一致率は、86.6%、80.9%といずれも70%を超えており、本分析は信頼性が確保できたと判断した。

また、用具に関する記録単位数を3種類の用具間で比較し、洗髪に対する肯定的意見と否定的意見の比率に有意差がないかを調べた（カイ二乗検定）。

3-5 倫理的配慮

本研究は、研究時所属した短期大学の倫理委員会の承認を得て、無記名の質問紙調査を実施した。調査依頼は、研究の趣旨と研究方法、参加は自由意志であること、データは研究以外の目的に使用しないことを文書で説明し、さらに、本調査は実施者のケアを評価するものでないことを申し添えた。調査票の返送をもって研究協力への同意とみなした。

4. 結 果

4-1 回答者の属性

全国111病院の看護師813名より回答を得た（回収率43.9%）。回答者の年齢は 36.7 ± 9.7 歳、経験年数は 13.2 ± 9.5 年であった。

4-2 用具別看護師の洗髪に対する意見

現在、病棟で行っている臥床患者の洗髪に関して、看護師の洗髪に対する意見を3種類の用具別に4段階で求めた（複数回答）。「満足」「やや満足」は肯定的意見、「やや不満足」「不満足」は否定的意見としたところ、「肯定的意見」は、洗髪車での洗髪210名（61.6%）、ケリーパッドでの洗髪104名（43.2%）、高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪170名（42.8%）であり、 χ^2 検定の結果、3種類の用具間で看護師の肯定的意見と否定的意見の比率に有意差（ $\chi^2 =$

30.884, $p<.001$) がみられた (表 1). さらに, 残差分析を行ったところ, 肯定的意見で正の標準化残差値は洗髪車での洗髪のみであり, 洗髪車での洗髪で肯定的意見が有意に多く, ケリーパッドと高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪では肯定的意見が有意に少なかった (表 2).

4-3 洗髪用具を選ぶ前提となる条件の有無と看護師の洗髪の満足感

洗髪用具を選択する場合, 前提条件として設定した 4 条件 (人的条件, 空間条件, 患者条件, その他の条件) (複数選択可) の有無により, 看護師の洗髪の満足感に差があるかどうか「満足」

表 1. 用具別看護師の洗髪に対する意見の比率の比較 (複数回答) $n=813$

	全体	肯定的意見	否定的意見	χ^2 値
	n (%)	n (%)	n (%)	
洗髪車	341(41.9)	210(61.6)	131(38.4)	30.884***
ケリーパッド	241(29.6)	104(43.2)	137(56.8)	
高分子吸収ポリマー入りシート	397(48.8)	170(42.8)	227(57.2)	

*** $p<0.001$

表 2. 表 1 結果の調整後の標準化残差

	肯定的意見	否定的意見
洗髪車	5.557***	-5.557***
ケリーパッド	-2.248*	2.248*
高分子吸収ポリマー入りシート	-3.420**	3.420**

* $p<0.05$ ** $p<0.01$ *** $p<0.001$

表 3. 用具選択条件の有無と看護師の洗髪に対する満足感との関連 (複数回答)

条件項目		洗髪車 $n=337$		ケリーパッド $n=239$		高分子吸収ポリマー入りシート $n=399$	
		洗髪満足感の平均値	p 値	洗髪満足感の平均値	p 値	洗髪満足感の平均値	p 値
人的条件	なし	167.74		118.01		196.27	
	あり	173.49	0.637	129.33	0.301	206.39	0.355
空間条件	なし	168.76		119.30		196.45	
	あり	171.04	0.890	120.88	0.850	203.61	0.498
患者条件	なし	156.98		111.39		195.13	
	あり	174.75	0.099	124.25	0.147	202.63	0.498
その他の条件	なし	171.66		123.61		198.81	
	あり	159.03	0.307	98.96	0.037*	206.11	0.610

* $p<0.05$

を 4 点, 「やや満足」を 3 点, 「やや不満足」を 2 点, 「不満足」を 1 点として洗髪用具別に平均値を求め, Mann-Whitney の U 検定を用いて調べ

たところ, ケリーパッドを用いた洗髪で, 「その他の条件」がある群は, ない群に比べて看護師の満足感は有意に低かった ($p=.037$) (表 3).

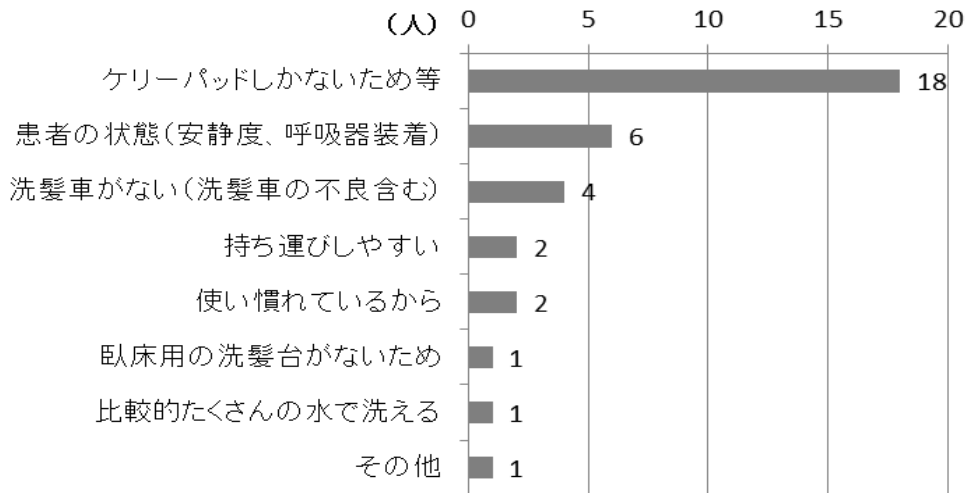


図 1. ケリーパッドの洗髪を選択した看護師の「その他の条件」の内容 n=35

ケリーパッドでの洗髪に回答した 239 名中、「その他の条件」があると答えたのは 35 名で、その内容は、「これ(ケリーパッド)しかないため」「設備がそれのみ」「洗髪車がない」など病棟設備上、用具選択の余地がないという記述が過半数を占めていた(図 1)。

4-4 看護師が洗髪方法に関する意見を決定した視点

肯定的あるいは否定的意見の理由とする自由記載の文章をカテゴリー化したところ、看護師は 3 種類の用具での洗髪に対する肯定的意見を 4 つの視点で、また、否定的意見を 4~5 つの視点で決定していることが明らかになった(表 4, 表 5)。

肯定的意見の理由となる自由記載の記録単位数は、用具別に洗髪車 169, ケリーパッド 53, 高分子吸収ポリマー入りシート 223 であった。否定的意見の理由となる自由記載の記録単位数は、洗髪車 186, ケリーパッド 184, 高分子吸収ポリマー入りシート 348 であった。肯定的意見の理由の文章は、洗髪車, ケリーパッド, 高分子吸収ポリマー入りシート, とともに【用具の機能性】【洗髪の成果】【患者の反応と安楽さ】【看護師負担の少なさ】の 4 カテゴリーが抽出された。また、否定的意見の理由の文章からは、ケリーパッド, 高分子吸収ポリマー入りシートで

は、【用具の機能面の不足や特性】【洗髪の成果の不十分さ】【患者の負担】【看護師の負担】の 4 カテゴリーが抽出され、洗髪車のみ、さらに【用具選択の制限】を加えて、5 カテゴリーが抽出された。

このように、臥床患者の洗髪方法に対する看護師の肯定的あるいは否定的意見は、3 種類のどの用具での洗髪であっても、用具の機能、洗髪の成果、患者、看護師の 4 つの視点から決定されていた。

また、看護師が肯定的とする理由の文章の記録単位数のうち、用具に関する記録単位数は、洗髪車 78 (45.6%), ケリーパッド 22 (18.3%), 高分子吸収ポリマー入りシート 118 (37.9%) であり、否定的とする理由の文章の記録単位数のうち、用具に関する記録単位数は、洗髪車 93 (54.4%), ケリーパッド 98 (81.7%), 高分子吸収ポリマー入りシート 193 (62.1%) であった。 χ^2 検定の結果、3 種類の用具間で用具に関する肯定的意見と否定的意見の比率に有意差が見られた ($\chi^2=23.553$, $p<.001$) (表 6)。残差分析を行ったところ、特に、洗髪車での洗髪は、肯定的とする理由の記録単位数が有意に多く、ケリーパッドでの洗髪では、否定的とする理由の記録単位数が有意に多かった(表 7)。

表 4. 肯定的意見の理由の自由記載文

用具	カテゴリー(用具別%)	サブカテゴリー	記録単位数
洗髪車	用具の機能性(46%)	シャワー機能	27
		豊富な湯量	25
		器具の構造、機能	16
		保温効果あり	7
		病室で実施可能	3
	洗髪の成果(32%)	洗浄の成果	49
		後頭部洗浄の程度	5
	患者の反応と安楽さ(21%)	患者の反応	31
		患者の安楽さ	4
	看護師負担の少なさ(1%)	看護師負担の少なさ	2
計(100%)			169
ケリーパッド	用具の機能性(42%)	用具の構造と機能	7
		用具の取扱いの簡便性	7
		短時間で実施可能	3
		安楽な体位	3
		豊富な湯量	2
	洗髪の成果(17%)	洗浄の成果	9
	患者の反応と安楽さ(30%)	患者の安楽さ	8
		患者の反応	6
		寝衣、寝具の汚染がない	2
	看護師負担の少なさ(11%)	看護師負担の少なさ	6
計(100%)			53
吸収シート	用具の機能性(53%)	簡便さ	60
		短時間で実施可能	29
		シートの吸収力	19
		省スペースと可塑性	8
		湯が節約できる	1
		清潔さ	1
	洗髪の成果(6%)	洗髪の成果	14
	患者の反応と安楽さ(33%)	患者の安楽さ	34
		体位変換、移動が不要	25
		患者の反応	9
		寝衣、寝具の汚染がない	5
	看護師負担の少なさ(8%)	看護師負担の少なさ	18
計(100%)			223

表 5. 否定的意見の理由の自由記載文

用具	カテゴリー(用具別%)	サブカテゴリー	記録単位数
洗髪車	用具機能面の不足や特性(50%)	スペースの必要性	36
		器具の構造と機能	24
		所用時間の長さ	23
		用具運搬、操作の困難性	8
		湯量制限がある	2
	用具選択の制限(0.5%)	器具設置の有無	1
	洗髪成果の不十分さ(4.5%)	洗髪の成果	8
	患者の負担(29%)	体位変換、移動が必要	52
		寝衣、寝具の汚染がある	2
	看護師の負担(16%)	看護師の準備、片付けの負担	16
		看護師の実施中の負担	14
	計(100%)		186
ケリーパッド	用具機能面の不足や特性(53%)	排水の困難性	38
		用具の構造と機能	21
		所用時間の長さ	21
		後頭部洗浄の困難性	9
		用具の取扱い	5
		スペースの必要性	4
	洗髪成果の不十分さ(15%)	洗髪の成果	28
	患者の負担(19%)	体位変換、移動が必要	22
		寝衣、寝具の汚染がある	13
	看護師の負担(18%)	看護師の準備、片付けの負担	15
		看護師の実施中の負担	8
	計(100%)		184
吸収シート	用具機能面の不足や特性(55%)	シートの吸収力	110
		外見上の問題(倫理面)	31
		後頭部洗浄の不十分さ	18
		シートの形状と面積	13
		シート処理時のごみの量	10
		シートからの水漏れ	9
		所用時間の長さ	2
	洗髪成果の不十分さ(23%)	洗髪の成果	81
	患者の負担(19%)	患者のコスト負担	23
		寝衣、寝具の汚染がある	21
		患者の爽快感の不足	20
	看護師の負担(3%)	看護師の実施中の負担	7
		看護師の準備、片付けの負担	3
	計(100%)		348

表 6. 看護師の用具に関する肯定または否定的意見の記録単位数の用具別比較（複数回答）

	全体	用具に関する 肯定的意見の 記録単位数	用具に関する 否定的意見の 記録単位数	χ^2 値
	n (%)	n (%)	n (%)	
洗髪車	171(100)	78(45.6)	93(54.4)	23.553***
ケリーパッド	120(100)	22(18.3)	98(81.7)	
高分子吸収ポリマー入りシート	311(100)	118(37.9)	193(62.1)	

*** $p < 0.001$

表 7. 表 4 結果の調整後の標準化残差

	用具に関する肯定的意 見の記録単位数	用具に関する否定的意 見の記録単位数
洗髪車	3.023**	-3.023**
ケリーパッド	-4.554***	4.554***
高分子吸収ポリマー入りシート	0.913	-0.913

** $p < 0.01$ *** $p < 0.001$

5. 考 察

5-1 用具別看護師の洗髪に対する意見

洗髪車、ケリーパッド、高分子吸収ポリマー入りシートで行う洗髪について、看護師の肯定的意見と否定的意見の比率に差があるかを調べた結果、3 種類の用具間で有意差が見られた。なかでも、洗髪車での洗髪は、看護師の肯定的意見が有意に多かった。

今回は対象病院が 400 床以上の比較的規模の大きい施設であり、多くの病棟で洗髪車が配備され使用頻度も高いことから、回答者は臥床患者における洗髪での効果や利便性を実感しており、総合的に判断した結果であろう。尾崎ら¹⁴⁾の先行研究においても、全国の 200 床以上の病院で使用される洗髪用具は、ケリーパッドより洗髪車が使用頻度は高く、洗髪車は有効な洗髪用具として支持されていると考えられる。一方、蝦名ら¹⁵⁾は、ベッドサイドの準備や後始末に時間がかかる等、洗髪車の問題を明確にしており、臨床における活用が多い反面、施設により使用状況は異なるため、一部の否定的意見も見られたと考える。

一般に、洗髪車は貯水前でも 30～40 kg の重量

がある。また、保温機能があり約 30 リットル程度清水槽に貯水可能なため、臨床では一度に 2、3 名洗髪できる湯量を準備することも多いと考えられ、持ち運びの簡便化は課題である。筆者らも臨床において洗髪車での洗髪を経験しており、臥床患者に洗髪車で洗髪を行う場合、洗髪の成果に肯定的な反面、洗髪車の準備、ベッドの移動やセッティングに労力を要する状況に否定的となることは理解できた。また、洗髪車に対して否定的意見とした理由の記述からは、「後片づけなど時間がかかる」「とにかく重くて持ち運びが大変だ」「コンパクトでないため、総室で使用する際に不便」など日常の具体的な困難場面から洗髪車での洗髪に対する意見が述べられており、内的妥当性がある¹⁶⁾と思われた。ここでは、洗髪車での洗髪に対する看護師の否定的意見に影響を与えるものとして《用具持ち運びの困難性》が明らかになった。

5-2 洗髪用具を選ぶ前提となる条件の有無と看護師の洗髪の満足感

3 種類の洗髪用具での洗髪を行うにあたり、何らかの制約があれば、その洗髪方法に対する看護師の洗髪に対する満足感も減少すると考え

られる。洗髪用具選択の4条件（人的条件、空間条件、患者条件、その他の条件）の有無により洗髪に対する看護師の満足感を比較すると、事実、ケリーパッドでの洗髪で、用具選択の理由に「その他の条件」がある群は、ない群に比べ看護師の洗髪の満足感は有意に低かった。「その他の条件」とは、「ケリーパッドしかない」「洗髪車がない」など病棟設備上、用具選択の余地がなく、ケリーパッドで洗髪を行っている場合が大半を占めている。このように用具の選択肢がなく、限られた用具で行う洗髪では、他の用具を選べる場合に比べ看護師の主体的な選択が制限されるため、洗髪に対する満足感が下がることにはリアリティがある。ここでは、洗髪に対する看護師の満足感に影響を与えるものとして《洗髪用具選択の可能性の有無》が明らかとなった。

5-3 洗髪方法に関する看護師の意見を決定する視点

洗髪方法に関して、肯定的あるいは否定的とした理由の文章の記録単位数を比較したところ、3種類の用具間で用具に関する肯定的意見と否定的意見の記録単位数の比率に有意差が見られ、洗髪車での洗髪は肯定的な、ケリーパッドでの洗髪は否定的な意見の記録単位数が多かったことは、前二項の結果と矛盾せず、看護師の率直な思いを反映していると考えられる。臨床では予め状況に応じ、用具を選択の上で洗髪が行われており、単に用具の違いが看護師の洗髪に対する肯定的意見に影響する訳ではない。しかし、臥床患者の洗髪用具として、洗髪車はやはり有効であり、ケリーパッドは用具に選択の余地がない場合に使用するなど、積極的な選択肢ではない一面も明らかとなった。また、臨床場面は多岐にわたり、同じ用具を使用すればどのケースも常に同じ結果が得られるとは限らず、肯定的、否定的意見の基準となる様々なファクターが複合的に存在することが推察された。

今回の調査は用具別に回答を求めたため、理由の自由記載は用具自体に関するものが最も多かったのは事実である。次いで多かったのは、患者の良い反応が励みで満足と感じたり、患者の負担に配慮して不満足と感じる記載であり、

患者の立場に立つ看護師の視点を確認できた。

課題と考えられるのは、高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪で否定的意見のサブカテゴリーに、[シートの吸収力]の記録単位数が圧倒的に多いことである。これは、臨床でオムツや処置用の薄い吸収シートを重ねて流用していることに起因すると考えられる。

また、高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪に関する肯定的意見のサブカテゴリー[短時間で実施可能][簡便さ]の記録単位数が多い一方で、否定的意見のサブカテゴリー[洗髪成果の不十分さ]の記録単位数も多かった。さらに、記述内容には「後頭部がくっついており、洗いにくい」と否定的な一方で、「後頭部がくっついており、頭部が安定する」という肯定的意見もあり、同じ高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪の現象にもかかわらず、捉え方が異なり、シートの特性により起こるこのようなアンビヴァレンスは、高分子吸収ポリマー入りシートの課題の多さを示唆していると考えられた。また、高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪に関する否定的意見のサブカテゴリー[外見上の問題（倫理面）]の記録単位数が比較的多かったことで、看護師はディスポーザブル製品であっても排泄に用いるオムツを人の頭部に当てることに心を痛めており、臨床でモラルハザードが生じていないことを確認できた。

今後は、「高分子吸収ポリマー入りシート」での洗髪に対する看護師の否定的意見から、サブカテゴリーに示す内容に焦点を当てた洗髪用具の開発の必要性が示唆された。

6. 結 論

- 1) 洗髪車、ケリーパッド、高分子吸収ポリマー入りシートという3種類の用具で行う臥床患者の洗髪に対して、看護師の肯定的意見と否定的意見の比率に有意差があり、特に、洗髪車での洗髪では肯定的意見が有意に多かった。
- 2) 洗髪車での洗髪に対する看護師の意見に影響を与えるものとして、《用具持ち運びの簡便さ》があり、洗髪車における器具の軽量化や操作性の向上、片付けの簡便化が

求められる。

- 3) 看護師の洗髪の満足感に影響を与える条件には、《洗髪用具選択の可能性の有無》があり、臨床の状況に合わせ適切に選択可能な洗髪用具の整備が必要である。
- 4) 臨床では予め状況に応じた洗髪用具を選択するため、臥床患者の洗髪については、単に用具の違いが看護師の肯定的意見に影響する訳ではなく、様々なファクターが複合的に存在する。
- 5) 高分子吸収ポリマー入りシートでの洗髪の課題は、十分な吸収力がある洗髪専用シートの開発である。
- 6) 臥床患者の洗髪方法に関する看護師の意見を決定するのは、用具の機能、洗髪の成果、患者、看護師の4つの要素である。

7. 研究の限界と今後の課題

看護師の意見は患者の立場も反映させることが可能と考え、今回、臥床患者に使用する3種類の用具での洗髪に関する看護師の意見を検討した。看護師は、判断理由とした自由記載でも患者の安楽や負担に十分言及していたが、今後は施行者ばかりでなく、臥床患者自身の立場で洗髪に対する意見を検討していくことが課題である。

謝辞

本研究にご協力いただきました看護師の皆様ならびに病院関係者の皆様に心より感謝いたします。なお、本研究は科学研究費補助金（平成21-23年度、挑戦的萌芽研究）の助成を受けて実施しました。本研究の一部は第30回日本看護科学学会学術集会において発表しました。

文献

- 1) 日本看護科学学会：看護行為用語分類 4, 領域 2, 基本的生活行動の援助, 2D0401, 洗髪, 日本看護科学学会公式ホームページ, <http://jans.umin.ac.jp/naiyo/bunrui/index.h>, (参照 2013/4/25)。
- 2) 加藤圭子, 他 (2000) : 頭部の落屑量と快感・不快感—洗髪による落屑量と快感の変

化—, 臨牀看護, 26 (5), 730-736.

- 3) 船木和美, 他 (2008) : 看護援助としての洗髪が生体に及ぼす影響—自律神経活動及び循環動態指標を用いた検討—, 宮城大学看護学部紀要, 11(1), 21-25.
- 4) 松廣礼佳, 他 (2009) : 高齢者の術後せん妄予防のための洗髪実施による効果の検討—日本語版ニーチャム混乱・錯乱状態スケール得点の推移に基づく分析—, 日本看護学会論文集老年看護, 24-26.
- 5) Kim. C. G. (1991) : A study on the perception level of nursing activities of nurses in general hospital, Taehan Kanho, 30(1), 51-62.
- 6) 安本八千代, 他 (2001) : ベッド上で行う洗髪用具の工夫—洗髪車と比較して—, 十和田市立中央病院研究誌, 15(1), 77-81.
- 7) 佐々木美紀子, 他 (2004) : 急性期管理下における安全, 安楽な洗髪ケアの方法—ケリーパッドに替わる洗髪用具を考案して—, 茨城県救急医学会雑誌, 218-219.
- 8) 川口みさお (2004) : 安楽で手軽に活用できる頭部保持台付き洗髪用具の考案, 日本看護学会論文集成人看護 I, 217-219.
- 9) 辻和子 (2008) : 体を動かせない患者への清潔への取り組み—紙おむつ・吸水パッドなどを利用して, 消化器肝胆膵ケア, 13(3), 81-85.
- 10) 中井康子 (2008) : 紙おむつを使用しての洗髪用具の検討, 鳥取臨床科学, 1 (2), 325-331.
- 11) 中西亜留務, 他 (2009) : 洗髪台における頭部支持機能の有無による頸部負担の比較検討, 日本看護学会論文集看護総合, 144-146.
- 12) 佐藤正樹, 他 (2010) : 看護師の洗髪用具に関する印象調査, 日本看護技術学会第9回学術集会講演抄録集, 191.
- 13) 舟島なをみ (2007) : 質的研究への挑戦, 医学書院, 38-78.
- 14) 尾崎道江, 他 (2009) : 臨床における看護用具の使用状況に関する実態調査—教材として用いる看護用具に焦点を当てて—,

- 茨城キリスト教大学看護学部紀要，1，
45-54.
- 15) 蝦名恵，他（1998）：臥床が必要とされる
患者の洗髪回数と洗面用具についての実
態調査，十和田市立中央病院研究誌，14
（1），60-62.
- 16) Merriam S. B. （1998）：Qualitative
Research and Case Study Applications in
Education (2nd ed), John Wiley&Sons,
Inc. 堀薫夫，久保真人，成島美弥訳：質
的調査法入門－教育における調査法とケ
ーススタディ，ミネルヴァ書房，2005，
294-296.

（受理 平成 25 年 5 月 10 日）